

2014年度美術科教育学会リサーチフォーラム in 東京
〈美術科教育学会・科学研究費発表共催シンポジウム〉

コレクションと鑑賞教育

—美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育の展開—

成果報告

美術館のコレクションを活かした鑑賞教育の新しい形
～国立美術館共同「WEB版コレクション・マップ」の実際と活用～

一條彰子(東京国立近代美術館)
奥村高明(聖徳大学)
室屋泰三(国立新美術館)

講演

米国の美術館教育の現場から～普及活動の今日的展開～

シャロン・バツスキー(グッゲンハイム美術館教育部ディレクター) ※同時通訳

シンポジウム

コレクションを生かした鑑賞教育とは～国内外の美術館の実践から～

寺島洋子(国立西洋美術館)
シャロン・バツスキー(グッゲンハイム美術館教育部ディレクター)
今井陽子(東京国立近代美術館工芸館)
上野行一(帝京科学大学)
岡田京子(国立教育政策研究所)
藤田千織(東京国立博物館)

日時:2015年1月10日(土)14:00～17:00

会場:国立西洋美術館 講堂(東京都台東区上野公園)

定員:140名(事前申し込み必要,参加費無料)

申し込み及び問合せ先:東京国立近代美術館教育普及室(メール限定) edu@momat.go.jp

美術館はその性格や収蔵品などにそれぞれの特徴がある。美術館が学校教育と連携して鑑賞教育を実施する際、この美術館自身の特徴をどのように活かすかが問題となる。本研究ではそれぞれ性格の異なる複数の国立美術館(東京国立近代美術館・工芸館、国立西洋美術館、東京国立博物館)の収蔵作品をもとに、学習指導要領や発達、さらには国外の主要美術館の現状等を踏まえながら、美術館の性格や収蔵品を生かした鑑賞教育のプログラムを提案・活用する。それによって国内の美術館の教育普及、活動や学校と美術館の連携を図った鑑賞教育に寄与しようとするものである。

※ 本シンポジウムは平成24-26年度 科学研究費基盤基盤(B)「美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発研究」(代表:一條彰子(東京国立近代美術館))に基づいている。

国立西洋美術館へのアクセス

